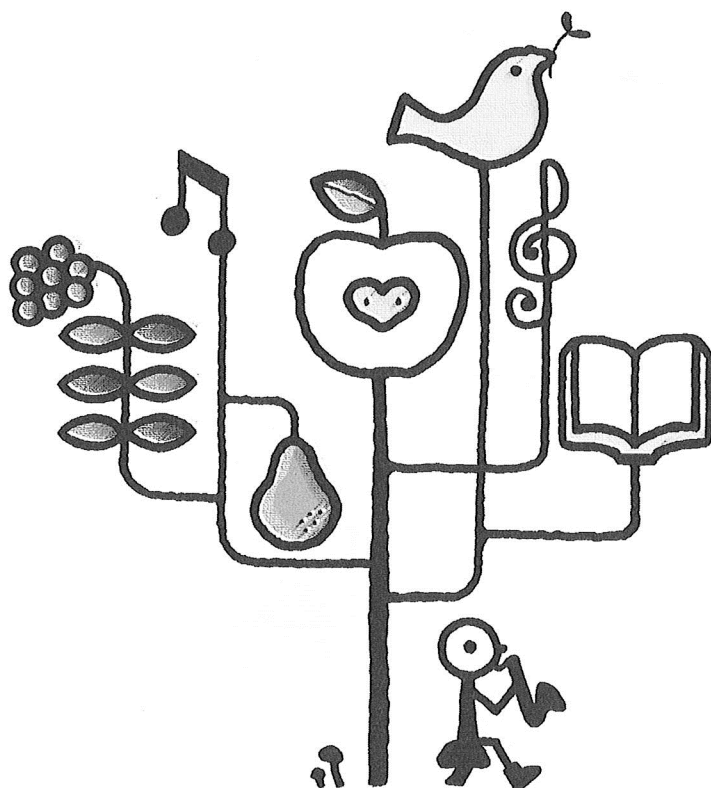


道

教

組

▶ DOKYOSO NEWS vol.506



第28回 道教組中央委員会開催

戦争法は成立したが、たたかいはここから!

「全国学力・学習状況調査」結果公表にあたって

楽しかった小樽での製作体験、フィールドワーク

わたしのとっておき

第28回 道教組中央委員会開催

日本国憲法に違反する「戦争法案NO」、各地のたたかいが報告される！

9月12日、札幌市内で道教組第28回中央委員会が開催しました。冒頭、川村委員長から戦争法案をめぐるたたかいなど情勢の特徴にふれながら挨拶がありました。続いて榎本書記長から、前半の総括と当面のとりくみについて提案があり、新保副委員長からは'14年度決算報告がされました。活発な討論の後、議案は全て全会一致で承認されました。中央委員から14本の発言がありましたので一部を紹介します。

◆川村執行委員長 あいさつ(要旨)



国会では、安保法案の参議院での審議が山場を迎えています。この土日が明けた来週以降、与党は国民大多数の反対を押し切り、立憲主義を破壊してまでもの強行採決をもくろんでいます。

全国各地で沸き起こった反対運動で、日本は今まさに騒然としています。全教、道教組も「全国教職員投票」をはじめ、様々なとりくみに全力を挙げてきました。この間の動きで特筆すべきは、「立場の違いを越え」、「様々な切り口から」安保法案阻止の一点での共闘が幅広く広がっていることです。そして、その大きな世論は、政権与党を確実に追い詰めています。

道教組組合員が「教え子を再び戦場へ送らない」の決意の重さを胸に、この状況の下、今、自分たちができることは何かを見つけ、一人ひとりがやりきることを期待しています。

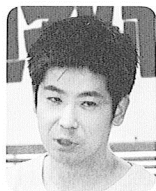
全国学テに体力テスト。学校に対し、数字による結果ばかりを求めるといふしめつけがますます強まっています。でも、いくらしめつけようと、教育はその特性として、常に「創造性」を抱えています。教育の本質や学校の本来の姿を呼び起こ

してくれるような実践が各地で展開されています。この中央委員会、そして、今年度後半の道教組運動の中で、それらが多いに交流され、全道の教職員を励まし、確信につなげていきましょう。

学校づくり、教育条件整備、国民の生活や権利擁護、教職員の勤務条件改善など、ないがしろにはできない重要課題が山積しています。その中で、「自分は何がしたいのか、何ができるのか」を問い続けながら、常に国民的共同の方向性をめざすこと。それができるのが道教組だと確信しています。

道教組として、その力を束ね大きなうねりにつなげていくことに全力を挙げる決意を申し上げ、中央委員会の開会にあたっての挨拶といたします。

全胆振教組 前田 求



苫小牧は、国語と数学（全国学テの結果）が落ちているということで、秋田へ視察に行っている。行政は、自分たちが指導しないと教師がしっかりやらないと思っている。職場では、学年の若手2人とゆっくり話したいが、時間が取

れない。教師が職場で育つことが難しくなっている。

「安全保障関連法案」反対の宣伝に行ったら、話すつもりはなかったのにリレートークでマイクが回ってきた。おっかなびっくり話してみたら、聞いていた人から拍手があり、うれしかった。こんな体感を広げたい。

根室教組 長尾 克彦

4年前に人事異動実施要領の改定が行われ、根室管内の北部、中部、南部の3か所を人事異動で



回らなければならないことになりました。

北部の羅臼にベテランが増えたというメリットはありますが、無理な人事異動の増加で、長距離通勤が増えたというデメリットがあります。私が知っているだけで長距離通勤の方は16人います。私も家が別海、職場が根室なので、片道57キロもあり大変です。根室の局がこだわっているこんな人事異動はやめてほしい。

宗谷教組 阿部 諭



9月19日夕方、稚内支部として安保法制反対の街頭宣伝を行う予定で、他の支部からの参加もよびかけています。

稚内市内の2校の無級地解消や離島の僻地級地を守るたたかひも重要です。宗谷では、組合・地教委・公聴会・PTAが一体となつてとりくんできた安心感もあります。宗谷教組は、へき地級地についての学習会も行い、約20名で「へき地級地を守る議会請願」の街頭署名を行いました。署名の到達は約8,000筆までできました。

日高連絡会 國保いずみ



ファシスト安倍政権は、戦後レジームからの脱却を訴えました。戦前の大日本帝国時代にもどそうとしているかのようです。戦争法案反対のたたかひは、国民の命運をかけたたたかひになっています。そして、組合の存在と役割が

問われています。日高連絡会は、今6名ですが、3月に若い2人が加入し、例会を多く持ち、9月10日には、組織内集会を行いました。11月3日には「道徳フォーラム in 日高」を開催します。

空知教組 関屋 元



戦争法案の中央公聴会が行われますが、公述人希望者が95名いて、全員反対だそうです。8月30日の国会前行動に大竹さんが参加しました。参加しただけでもうれしかったそうです。国会前に12万人が集まり、シールズの若者が、「魂

の叫び、考えるのではなく、感じる」というようなことを語ったそうです。職場で法案反対のFAX用紙を配ると、私に届けてくれる職員もいるんです。うれしいですね。

網走教組 山本 仁史



青年部の沖縄ツアーに参加してきました。街の真ん中に普天間基地があるんですね。見るだけではわからないこともあると思うので、何年か住んでみたいとも思う。お盆に宮城・岩手に行き、被災地を見てきました。大震災で地域が崩壊し、「住民無視の復興とは、再生とは何だ」という思いです。

「教研活動こそ組合活動の中心である」ということを網走教組はめざし、夏の合宿研など継続してとりくんでいます。

全釧路教組 斎藤 鉄也



全釧路教組は、戦争法案反対のためいろいろやってきました。毎週行動があり、木曜行動、金曜は反原発宣伝、土曜は駅前行動です。今まで積極的でなかった組合員も、行動に参加し、その宣伝行動の中、組合員が心からの声で感動的に話してくれました。厚岸でも毎週土曜日に宣伝行動を行っています。教職員投票のとりくみでは、管理職を含めて全体に呼びかけました。そしてFAXのとりくみも。

原水禁世界大会に私も参加してきました。代表者派遣カンパを集めることにどんな意味があるのか、世界大会の参加者が熱く語ってくれました。

障教部 田中 豊一



道教組・高教組障教部の要求書で、道教委と交渉を行いました。特別支援学校の新設校には、給食無し、スクールバス無し、寄宿舎無しの「3無い」の状況があります。やはり寄宿舎が必要なんです。しかし、道教委は新設校や間口増に追われて、寄宿舎まで手が回らないという回答です。

再来年は札幌で全国集会を開催しますので、皆さんよろしくお祈りします。

梶木書記長による討論のまとめ



16本の討論で、道教組運動を豊かにそして鮮明に補強していただきました。

特徴の1つめは、学力テスト対策や「スタンダード」、土曜授業の施策で学校現場はますます多忙となり、同僚との語り合いの時間が取れずにいること。さらには、教師が現場で育つことが困難になっているとの実態がたくさん出されました。これに対して私たちは全否定するのではなく、「おかしくない？」と投げかけながら一致点を探り、対抗軸を「子どもの成長」「豊かな学び」にすえて対案を示す実践を積み上げました。

2つめは、「教え子を再び戦場に送らない」決意のもと、「戦争法案」に反対し廃案を求めるとりくみについての討論がたくさんありました。初めて街頭宣伝に参加して組合員が元気になったり、全国教職員投票のとりくみで管理職や他教組、さらには未組合員の同僚と「子どもたちに平和な日本を渡したい」の一致点で共同の輪が広がりました。今回の「課題で一致する」経験から、私たちは職場づくり・学校づくりの課題でも同僚と共同できることを学びました。

このとりくみを通じて得た力を、後半戦の組織拡大・強化に振り向けましょう。「戦争法案」のたたかいは最終局面を迎えています。最後の最後まで全力でたたかい続けましょう。



当面する課題

- 1, ゆきとどいた教育を求める教育全国署名
〆切12月1日(火) 1人が30筆を目標に

- 2, 憲法を守り、「戦争法案」を成立させないとりくみ

- ◎9/8参議院特別委員会参考人質疑での伊藤真弁護士の意見陳述を学習しましょう。
- 地域で開催される「戦争法廃止を求める行動」に積極的に参加しましょう。
- 強行採決・成立後、抗議FAXや電話がけにとりくみましょう。さらに、全教などからの行動提起にも連帯します。

- 3, 組織維持・強化・拡大のとりくみ

- 10~11月を「秋の組織拡大・強化集中月間(かりとる)」と位置づけ、教研、教育署名、賃金削減を許さないとりくみなど、各組織が元気な姿を見せながらすべての教職員と対話しましょう。
- 対話から、授業や指導上の悩みや課題を聞き、学び合う関係をつくりながら組合加入を呼びかけましょう。その際、「つながりの5,000円」や「集いあい促進費」を大いに活用しましょう。
- 自分たちのやりたい活動に集まりましょう。
- 拡大目標まで67名。対話目標は700人以上！すべての組織で10人以上と対話しましょう。

- 4, 子どもたちの健やかな成長発達・豊かな学びを保障するとりくみ

- 全国学テの道教組【見解】を学習し、同僚や保護者と対話しましょう。
- 子どもの実態から課題を共有し、学年・学校で共同、子どもにいていねいな指導、さらには子どもたちどうしの学びあいを大切にしましょう。
- 全道合研には、レポートを持ち寄りましょう。

- 5, 国旗・国歌の指導をめぐるとりくみ

- 授業公開の押しつけを許さず、職場論議を大切にしながら、授業実践を深めましょう。

戦争法は成立したが、たたかいはこれから!

許されない安倍総理の独裁姿勢

圧倒的国民世論の反対を押し切り、安倍政権は「安保関連法(戦争法)」を可決・成立させました。その強行した姿に国民の意思は、成立後の各社世論調査でも「説明不十分」が8割と出ています。

国民と野党の共同で安倍政権を追いつめた

シルバーク
ィークを控え
た9月14日の
週には、「総
がかり行動実
行委員会」の
よびかけで国



会前はもちろんのこと、全国津々浦々で「戦争法案今すぐ廃案!」「安倍政権は今すぐ退陣!」のコールが響き渡りました。平日にもかかわらず、国会前には4万人超、札幌でも連日1,000人超の人たちが「居ても立ってもいられない」と集まりました。

にもかかわらず、安倍政権・与党は、16日の地方公聴会(神奈川)終了後、特別委員会で法案の質疑終了を鴻池委員長の職権で決定しました。

この提案に対し、国民の思いを受け止めた野党6国会派(民主・共産・社民・生活の党と山本太郎となかまたち・無所属クラブ)が猛反対し、17日には鴻池特別委員長不信任動議を提出し抵抗しました。しかし、この委員長不信任動議を与党多数で否決した直後、与党議員が委員長席を取り囲み、もみくちゃの中で強行採決に踏み切りました。

総理の総括質疑もなく、誰が賛成し反対しているのか速記録にも記載不能な混乱の中で「可決」されました。自民党は、採決動議、法案2本、付帯決議、委員会報告の5回採決したと説明したそうです。明らかにこんな採決は無効でしょう。

「言論の府」「良識の府」である参議院のはずが

18日には、野党は中谷防衛大臣問責決議案、山

崎参院議長不信任決議案、安倍首相問責決議案、鴻池特別委員長問責決議案、衆議院では安倍内閣不信任決議案を次々と提出し、文字通り「あらゆる手段」を使って対抗しました。しかし、与党の数の力で問責決議案はすべて否決されました。

この中で与党は、野党が提出した問責決議案に対する討論時間を制限する動議を与党の多数で可決し、「言論の府」である参議院を変質させ、追いつめられた安倍政権は言論を封じました。

民主主義を認めない安倍政権

日付が変わり19日午前2時18分ごろ、とうとう安倍政権はなし崩し的に違憲立法である「戦争法」を強行成立させました。国民多数が反対し、多数の憲法学者、元内閣法制局長官や元最高裁長官が違憲を表明する中でも聞く耳を持たず、審議を一方向的に打ち切り、討論時間を制限し、小選挙区制により2割の得票で「虚構の多数派」を形成した安倍政権です。それに加え最終盤で、野党の3党(次世代の党、新党改革、日本を元気にする会)が方針転換させ賛成に回ったことを忘れてはいけません。

たたかいはまた、ここから始まる

19日の札幌大通公園には1,000人が集まりました。書記局はもとより、空知教組・宗谷教組・全胆振教組・日高連絡会・全釧路教組からも参加し、「強行採決絶対反対!」「戦争反対!」「安倍はやめろ!」と力強く訴えました。ここからです!



2015年度「全国学力・学習状況調査」

結果公表にあたって【見解】概要版

「全国学力テスト」による平均点競争・県別順位争いの激化を改め、子どもたちの学ぶ意欲・能力・個性を引き出し、人間的自立をうながす教育を大切にしましょう

2015年8月28日

全北海道教職員組合
北海道高等学校教職員組合連合会

1 「学力」競争に拍車をかけ、子ども・教員を追い込む文科省・道教委は、人間的成長が期待される学校を息苦しい競争社会にかえています

文科省は8月25日、全国の小学6年生と中学3年生を対象に行った2015年度「全国学力・学習状況調査」の結果を発表し、「都道府県ごとの平均正答率は地域差が縮小する傾向がすすんだ」としています。

柴田新教育長は今回の結果を受け、「27年度の全国学力・学習調査は、中学国語A、中学理科は全国平均以上となるなど、一定の改善の傾向がみられ」「一方で未だ多くの教科で平均点を下回り、3教科で全国との差が広がっている」とのコメントを発表。

これは文科省・道教委による学力観によって、点数主義偏重の「学力」競争に拍車がかかるなか、全道の教員や子どもたちを追い込んできた結果といえます。

2 またも「全ての教科で全国平均以上をめざす」道教委は、学校・教員・子どもたちを更なる学力競争に追い込むのか

柴田新教育長は、「学校、家庭、地域、行政が一体となつてとりくむ『学力・体力向上運動』などを継続し、平成28年度には、全ての教科で全国平均以上になるよう、学力向上のとりくみを推進します」と述べた。

日本の過度な競争主義に対し、国連子どもの権利委員会から数度に渡り問題点を指摘されてきました。2010年、同委員会は日本政府に対し最終所見を発表し、「高度に競争主義的な学校環境が、就学年齢にある子どもの中のいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺に寄与しうることを懸念する」と指摘しました。

3 学校別の結果公表が増えると、学校の序列化や過度な競争に拍車がかかります

わたしたちは、真に平和で民主的な社会を築くためには、何よりも全ての子ども・青年に市民として主体的に行動する「生きる力」「確かな学力」を身につけることが必要と考えています。基本的な知識と技術・技能。これらの内容を「国民的教養」として全ての子ども・青年に保障すべきです。子どもや家庭、学校と教師を果てしない競争教育に駆り立てる「学力テスト」のあり方は直ちに見直されるべきです。

4 「全国一斉学力テスト」の弊害を改め、子どもたちの学ぶ意欲・能力・個性を引き出し、「人間的な自立」をうながす教育を大切にしましょう

今日においても、競争することによって良い「人材」が生み出され国力増強につながるという財界の根強い要請に沿って、競争主義で勝ち抜いた一部のエリートを中心とした社会、弱者冷遇の新自由主義的社会的形成に政府は躍起になっています。こうした社会だからこそ「学力テスト」は、学校と教員を点数偏重主義にいつそう駆り立てています。

教師が恒常的に、子どもの悩みや心の叫びを受け止めることができるよう、ゆとりある教育環境は急務です。今求められているのは、子どもの学ぶ意欲・能力・個性を引き出す教育であり、全面的な発達を保障し、多様に伸びていく子どもたちの育成が大事にされることです。

楽しかった 小樽での製作体験、フィールドワーク

報告 太田 和真 (青年部長)

9月20日～21日、道教組青年部の交流企画「オトナの宿泊学習」を行いました。普段は子どもを引率していく場所に、先生たちだけで行って満喫しようというコンセプトで始まった企画です。

今年の開催場所は、小樽でした。1日目のメインは、昨年に続く製作体験、吹きガラス体験でした。前日に参加してくれることになった札幌の先生がいると聞いていたので、どんな人なのかと思っていたら、大学のとなりのゼミの後輩が現れて驚きました

吹きガラス体験は、時間との勝負だったので、一人10分ほどであっという間に終わってしまいました。それでも、色ガラスの粒をまぶして色をつけることや口を広げる時のちょっとした力加減で形が変わり、貴重な初体験ができました。

夜の交流会は、途中から合流した人もいたため、2日間で一番人数が多くなりました。小樽の海産物を堪能し、それぞれの地域や学校の様子を交流して、楽しい時間を過ごすことができました。

2日目は、午前中いっぱいを使って、道教組共済会の木村先生を講師に、小樽の歴史フィールドワークを行いました。小林多喜二の足跡をたどりながら、港の中心にある山を削り、海を埋め立て

ながら発展した小樽の町の成り立ち、そこで働く港湾労働者の働きぶりなどを学びました。小林多喜二の記念碑に近い旭展望台からは、小樽の町だけでなく、対岸の石狩湾新港まで見渡すことができました。わかりやすく説明してくれた木村先生、ありがとうございました。

今年の「オトナの宿泊学習」は、2日間で12名が参加し、初参加者からも「また来たいです」と言ってもらえる楽しい企画になりました。しかし、課題も残りました。来年以降、どんな内容にするか、より多くの人に来てもらえるように考えていきたい、などの感想も出されました。



編集後記

戦後最長の国会が終わりました。「安保関連法案（戦争法案）」をめぐる与野党の攻防と国民が国会前だけでなく全国津々浦々で反対の声を上げた今回のたたかいは「15年安保」と呼ばれています。

私の国会前・周辺の抗議行動への参加は、国会審議が始まった5月26日から、トータルで10回を数えました。衆議院で2度にわたる強行採決がされた7月15・16日も国会前にいました。12万人が集まった8月30日にも、民主主義を求めて国会前で声を上げました。そして、参議院の攻防ただ中の9月16日、警察の嚴重な警備の中、安倍総理、自民・公明党議員に「この声を聞け！」という思いで座り込みを続けました。

振り返ればこの間、道内各地でも同じ思いで宣伝活動に参加し、「マイクを握って元気」になっ

た仲間が多数現れたことに喜びと頼もしさを感じました。

「民主主義って何だ!」「これだ!」。これは、「安保関連法案」に反対するSEALDs（シールズ）が始めたコールで、全国に広がりました。

私たち教職員は、実のところ、「憲法」や「民主主義」、「政治参加」ということについて、本当の意味で体験しないまま育ってきたのではないかな。字面だけで子どもたちに教えてきたのではないかな。そんな思いを抱きながら、「15年安保」をたたかいました。

みなさん、たたかいはここからです。今回の経験は、今後の教育実践に生かせるはず。教職員だからこそできるたたかい方を見つけ、つむいでいきましょう。（榎木）

わたしのとっておき

“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「相棒」

27歳でバイクを降り、41歳でリターンライダー。北見から美幌を4年間、網走までを2年目の通勤の相棒がコイツ。夏場を中心に半年の付き合いだけど、ニーゴーで燃費が良くて最高。気に入っています。

【上田健一郎(網走市第三中学校)】



「弓道」

娘が中学で弓道を始めました。毎日の基礎トレーニングはきついようですが、半年で的を狙って矢を放てるようになりました。「皆中したよ」と言うことも増え、身体も心も磨いて充実した毎日を送ってほしいと願っています。

【和田 朗(北見支援学校)】

全教自動車保険

あなたをマモルン見積りキャンペーン実施中

年4回の抽選で全国で計2000名にプレゼント



小納谷部長
川上企画



見積り依頼で、
ハーゲンダッツ
ミニカップギフト券を
プレゼントします。
しかも、
今ならご紹介者にも
ギフト券を
プレゼントします。

提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

有限会社 **川上企画** (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウエスト12 1階
フリーダイヤル **0120-222-789** FAX **011-218-2472**

道教組

2015年10月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 川村安浩 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>